

論 文 要 旨

学位論文題目：韓国における家族計画事業の経験

—1960～70年代の農村の女性動員との関連から—

氏 名：李 知淵

本研究は、1960～70年代の農村女性動員論に焦点を当て、韓国社会は家族計画事業の経験といかに向き合ってきたのかという問いに、一定の解答を与えるために書かれたものである。具体的には、家族計画事業における啓蒙者と実践者との関係に注目し、第1に、家族計画事業を担った女性組織に対して作用する規範が、その関係をどのように規定しているのか、第2に、女性組織の内部では、実際にどのような関係性が生じているのかを、家族計画事業を経験した当事者の語りに沿って解き明かすことを目指すものである。

朝鮮戦争（1950～53年）後なお深刻な貧困と食糧問題に悩む韓国政府（朴正熙政権）は、1960～70年代に経済開発計画の一環として人口抑制政策、いわゆる家族計画事業（以下、事業）を推進するが、その主要な担い手は、家族計画オモニ会とセマウル婦女会という地域の女性組織であった。そうして女性を組織的に産児調節運動の担い手として動員したのは民間団体大韓家族計画協会（以下、家協）であるが、この家協の指導のもとに行われた事業では、女性が農村の地域開発の担い手として期待された。したがって、1960～70年代の農村の事業を担った女性組織の活動は、一方で女性の性と生の自由を奪い、しかしもう一方で、彼女らの家族役割の負担を軽減し、地域活動経験により彼女らをエンパワーするという二面性をもつものであった。だが、この過程は事業を担った地域の女性組織のみに起こったのではない。事業は女性の身体に対する直接的介入と統制をとめない、現場での指導には地域の一般女性が家族計画要員という新しい資格で大量に動員され、家協の事業を後押しした。さらに注目すべきは、家協は女性啓発誌『家庭の友』の発行を通し、様々な集団や組織を結び付けるパイプ役を担ったことである。女性啓発誌では、模範的な女性組織の活動そして当事者の手記などが掲載されたが、それは、地域社会において事業を担った女性組織と事業の中心部に属する女性の活動を手助けするものとなっていった。そのため、そこには女性が、生殖管理や地域開発への従事を通じて地域社会に貢献する主体として位置づけられる中で、個人と女性組織、家族、地域社会、家協などの社会集団との関係がつくられていくプロセスをみることができる。家協は事業を通じて、地域社会のどの部分に働きかけていたのか。事業における啓蒙者と実践者という立場に注目し、その政策の内容と影響を、事業経験をめぐる個人と社会集団との関係という文脈に位置づけて理解しようとするのが、本研究の狙いであった。

本研究の構成は大きく捉えるなら、1章では事業を論じる研究を批判的に検討し、2章と3章では個人が、過去の事業に動員される中で、個人と社会集団との関係がつくられていくプロセスをみるため、女性啓発誌『家庭の友』の記事分析を行った。そして、4章から6章までは現在の認識によって形成されているものとしての過去の事業経験をみるため、ライフストーリー分析の手法を用いた。

6章までの分析を通じて、明らかとなったのは、以下の通りである。まず『家庭の友』誌上の言説は、地域開発への従事を通じて地域社会に貢献する女性の主体化を企図するものとなっているが、そのためそれは、韓国農村における男女の活動領域と役割分担を再編するものとなり、また、本来私的な家庭領域に個別に埋没していた女性らをエンパワーするための道具となるものであった。また、そうした『家庭の友』の中では、事業を中心部で遂行した当事者によって、事業の共同作業を実践する中、学んだことや成果の経験談が書き記されているのを見ることが出来る。そのため、事業の当事者は、その経験を公に発表した家協や政府と事業を共に経験した婦女会という複数の社会集団との関係の中で、事業について振り返るとともに、あの事業とはいかなるものであったのかということを考えてきたといえる。そしてその中で当事者は、複数の社会集団と関わりながら、ある女性は事業の経験を公で語り、ある女性は事業後も変わらず婦女会関係の教育や行事に積極的に参加したりするなど、そうした事業に関わる社会的な行為を行ってきた。そうした事業に関わる社会的な行為を通して、各社会集団の中では、事業の経験を表象するものがつくられ、当事者は、自ら遂行した事業の経験を想起してきた。そして事業の経験と向き合う中で通底しているのは、事業が、農村地域の女性らを啓蒙者と実践者とに分けたということであった。そして、事業の啓蒙者と実践者との関係で、「先に悟った」という認識が生まれ、それは、事業の後を生きる当事者の生活を規定するものとなり、また、地域における継続的な人間関係と、地域組織を通して地域社会に貢献する原動力となった。そして、そうした事業の当事者と地域組織との関係の中で、事業の経験は成立してきた。